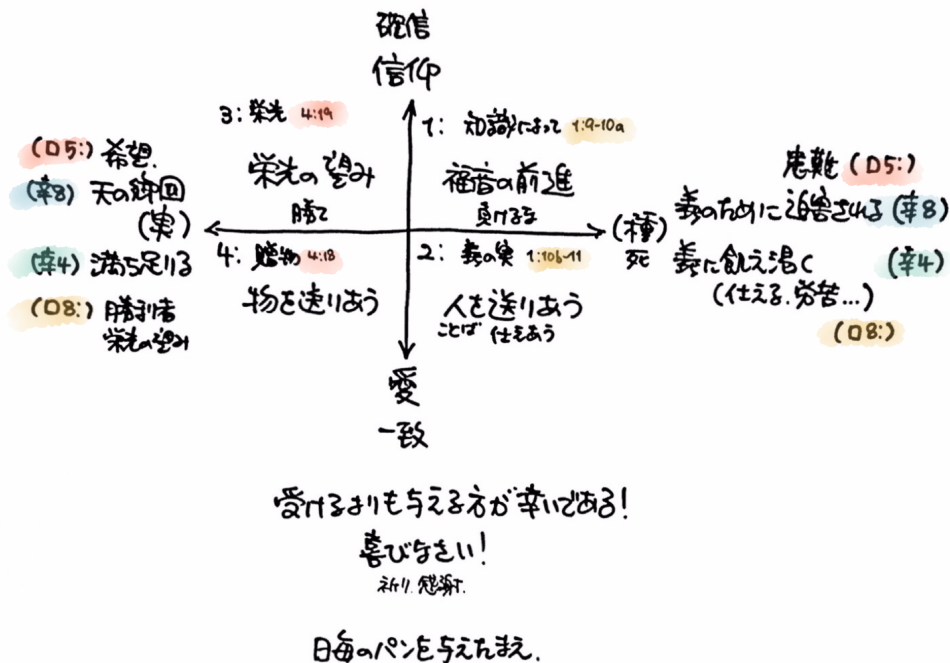




## ピリピ人への手紙 1-4章

ピリピ 1-4:

2016.3.10



ピリピ人への手紙の全体を分析してきて、いちばん全体を把握するのに苦労しました。

ガラテヤ、エペソ、コロサイ。いちばん分かりやすいのじゃないかと思っていたのですが、かなり苦労しました。このこっち(右)側に細いのがありますが、順番が違っているのです。右左の順番が違った紙が載っています。

1章、2章、3章、4章と、珍しく章の区切りと同じようになりました。ababと、この1章と3章のつながりと、2章と4章のつながりの方がわかりやすいかなということでしたね。1章は、迫害されて投獄されている。でも、福音を大胆に語っているというところがありました。3章の方は、復活の望み、栄光を見る。その日を待っているということが出ていますよね。その望みに向かっているということが書いてありました。

2章は、テモテとエパフロデとの話があって、それと2章の、しもべである十字架にご自分を渡して死にまでも従ったキリストのしもべとしての姿というところが、2章にあります。人を与える、自分の働き、御国のために仕える働きをしているというところ、死にまでも従ったというのが、2章8節のところにあります。それと「エパフロデとは死ぬほどになったけれども」というのが2度出てくるのですね。死にまでも従ったという模範で、人を送り合った。エパフロデはピリピの教会から送られてきた方、テモテはこっちから送った方ということで、人を送り合う。これはことばを送っている。ことばとお

金と一緒に動いてるような感じだと思います。ことばを送り合っている方。4章は、第2コリント8章と9章にあるように、極貧の中でも献金するという模範であるマケドニアの教会、ピリピの教会ということで、物を送り合うということで、愛が満たされていることを喜んでるということです。

こっち(1、3章)が信仰の戦いをしている。確信。人により頼むのではないという、より頼むというのも「確信」という言葉だったと思います。人ではなくて神に信頼して戦う。神に信頼して栄光の望みを持っている。これに対して、(2、4章は)一致を持ってください、一致を持ってくださいと、愛の一致を喜んでる。人を送り合う、物を送り合うということで、具体的にその愛の一致が表されてるということだと思います。

1章、2章の方が「種」、3章、4章の方が「実」というふうに言えるのではないかと。(1、2章は)迫害されて死んでいる。キリストの死。テモテやエパフロデとの仕える働き。その働きによって、(3、4章は)実を結ぶ、望みが叶う、最終的な平和が与えられる。ここ4章に平和が2回あったかと思えます。シャロームで満たされるということで、こっち(1、2章)が死、種に対して、こっち(3、4章)が実です。

山上の説教に似ているというふうに言ってきました。最初の報いのところですね。幸いが8個あって、4つ目と8つ目が、特にこのピリピで言われているところだろうと。上の1章、3章は、義のために迫害されている、投獄されている人は幸いです。その人は天の御国を受け継ぐ。それが望みなんだよね。それが望みだということは、マタイの続きのところを見ると、特に分かったと思えます。マタイ5章の幸いの段落の最後のところで、「もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義に勝るのでなければ、あなたがたは決して天の御国に入れません。」律法学者やパリサイ人の義に勝るものだと言っているのが、この3章ですよ。3章の最初で、パウロは「私はパリサイ人でした。その律法の義によるところなら、非難されるところがない。」というのも入っていますよね。それは天の御国に入れるという話と繋がっていますので、この義に迫害されている者、その死によって望みは必ず来ますということを言います。

下の2つの2章と4章の方は、4番目の幸い。義に飢え乾いてる者は満ち足りるところですね。「義に飢え渴く者は幸いです。その人は満ち足りるからです。」この満ち足りるところ、満ち足りて満足している。お腹いっぱいになっているということが、この4章にあります。2章のほうの「義に飢え渴く」というのは何でしょうということなのですが、義のために仕えている。労苦している。働いている。これが、義に飢え乾いていると。義のために実を結ぶ。義の実を結ぶようにというふうに戦っているというのが、義のために飢え乾いてると言えるんだろうと思えます。これが幸いの4番目。

それと、ローマの5章から8章の、神の愛について教えてくれる段落の所の出だしのところで、患難さえも喜んでるというところで始まります。患難はこれこれこれこれ。希望ですね。最後は希望を見出すことをしてるからだ。それと8章の方では、飢える。どんなことがあっても、神の愛から引き離されることはありませんというのを、ちゃんと覚えなきゃいけませんね。「私たちがキリストの愛から引き離すのは誰ですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」というところ。そうした人には圧倒的な勝利者になる。キリストの栄光ある望みから引き離すことはありませんということですね。この迫害、患難にあっている人は、圧倒的な勝利者になるということも、ローマで言われているところです。

ピリピの出だしの1章の9節から11節までの祈りと、4章の終わりのところ18節と19節の祈り。そこも並行していたかと思うのですが、そこに最初の2つと最後の2つが、この段落それぞれを表しているように見えます。1の9からのところは、「知識によ

て」(1章)。1の10からのところは「義の実を結ぶ」(2章)と。4の18からのところは「贈り物もらって喜んで満ち足りています」(4章)。「栄光の富で満たされます」(3章)。という風に、祈りで囲まれているところも、全体を表してるものだと思います。全体としては、パウロがエペソの教会と別れる時に言っているところですね。キリストが教えてくれたという「受けるよりも与えるほうが幸いである。喜びなさい。」という手紙であると。「毎日のパンを与えたまえ」ということを教えてくれて、励ましてくれるピリピの手紙ということです。